

第8回「鎌倉街道を歩く」

2017-11-1

記 佐藤 八郎

■実施日 2017-10-26 ■参加者 12名

台風21号の影響で1週間延びた10月26日(木)快晴の古道を参加者12名で大いに楽しみました。新秋津駅に8時に集合し、電車乗り継ぎ藤沢駅に9時半過ぎに到着です。古道歩きも4年目、最終回の今日は鶴岡八幡宮に向かって気分も高揚します。

藤沢駅を出発して暫く歩く。境川沿いの古道は江戸時代の江の島道と重なり、江の島弁財天道標が11基残されています。程なく鎌倉幕府第3代執権北条泰時開基の泉蔵寺を経て故木暮実千代さん植樹の「愛染かつら」の繁る密蔵寺に至ります。5分程歩くと推古3年(595)開山と伝えられる本蓮寺に着きます。本蓮寺は源頼朝の深い帰依により繁栄し「頼朝駒止めの松」と伝えられる古い松の切株も残されています。

参道入口の脇には「西行戻り松」との古い碑があり若い松の木が植えられています。通りかかった方に由来を尋ねると次のような説明がありました。

鎌倉時代、西行法師がこの辺りで出会った童に何をしているのかを訪ねると「夏枯れて冬ほき草を刈りに行く」との返事があったとのこと。この草は麦のことで、童は麦刈りに行くということですが、西行は大いに驚き、鎌倉に向かわず引返したという故事に由来するとの話でした。地元の方の造詣の深さに一同感心するばかりでした。



故 木暮 実千代さん植樹「愛染かつら」



西行「戻り松」

快晴で気分も良好、順調に南下し常立寺に至ります。常立寺は鎌倉時代 龍の口刑場で処刑された人々を葬り供養したのが始まりとされています。建治元年(1275)元王朝の世祖フビライの国書を携えて来朝した使者5名が9月17日に龍の口刑場で斬首されました。境内には5人の霊を供養する元使塚、大小五基の五輪塔があり、往時を偲ぶことができます。



5人の霊を供養する元使塚(後方)



満福寺の「腰越状」 義経・弁慶像

江の島道と分かれ古道をしばらく行くと日蓮宗聖蹟本山龍口寺が見えてきます。

龍口山縁起によれば、日蓮上人が文永8年(1271)「立正安国論」を著し幕府と対立 龍の口刑場で斬首されようとした、所謂 龍の口の法難の聖蹟として延元2年(1337)に建立されたとのこと。

丁度昼刻になり お楽しみの江の島名物 シラス丼を全員で味わいました。

食後は小動神社の展望台からの江の島方面の絶景を堪能し 近くの満福寺に参拝しました。

満福寺は源義経が兄頼朝への嘆願文「腰越状」を認めた場所として有名で 義経や弁慶ゆかりの遺物が残っています。結果は頼朝への面会は叶わず その後の悲劇は広く知られているところです。



大館次郎宗氏主従 11人塚



七ヶ浜海岸から「稲村ヶ崎」を臨む

腰越よりは人気の江の電に乗り七里ヶ浜を眺めながら極楽寺駅までの20分程を楽しみました。

極楽寺坂は「太平記」の「稲村崎成干潟事」の段に記載されている新田義貞軍と北条方との大激戦の場です。新田軍の大將 大館次郎宗氏主従 11人の討死の場面は詳しく語られていますが、宗氏は当会会員のOさんの遠い祖先とのこと。本日はOさんも参加しており11人を祀ってある「十一人の塚」を案内してもらいました。6坪程の塚は立派な碑もあり 地元の奉賛会が今でも綺麗に管理されており 一同大いに感激しました。

坂を下りきると稲村ヶ崎に出ます。新田義貞が金作りの太刀を海に投げ入れると潮が引き 義貞軍が一気に鎌倉に攻め入り幕府を滅ぼすという太平記でも最も劇的な場面です。秋の日暮は早いので先を急ぎ 稲村ヶ崎駅から鎌倉まで江の電に乗ります。

二の鳥居から若宮大路の最近修復された段葛を三の鳥居まで歩きましたが、何でも新しくすれば良いというものではないというのが実感です。

所沢から武蔵嵐山まで約 40 キロ、所沢から鶴岡八幡宮まで約 80 キロ、計 120 キロを 4 年12回に分けて歩いてきた一同 本当に感無量のものがあります。全員で本殿に参拝し感慨に浸りながら境内を散策しました。

2010年に倒れた大銀杏の根元から若木が育ち 既に5m以上になっているのは驚きでもあり楽しみです



段 葛



大銀杏から芽生えた若木(藤)



最終目的地 鶴岡八幡宮に到着!!

小町通りで買物を楽しみ 鎌倉発16時39分の湘南新宿ラインに乗り池袋経由で所沢駅に18時過ぎ無事帰着しました。その後はお約束の打ち上げ会を近くの徳樹庵で行い 4年間を振り返り大いに盛り上がりました。

最後になりますが、改めて 本日都合で出席できなかった先達の岩田さんに御礼申し上げます。

担当 佐藤 八郎
原 正次
小川 雅愛